第3次小樽市観光基本計画策定委員会（第8回） 会議議事録

日時：2026年10月16日（金）13:00～14:00
場所：小樽市役所本庁別館第2委員会室

1. 開会（進行：事務局）

・ 小樽市より開催案内があった。
・ 小樽市より配布資料の確認があった。

2. 議事（進行：委員長）

（1）第7回小樽市観光基本計画策定委員会振り返り【資料1】

・ 事務局より資料1について、各議事の概要をまとめたうえで、提言書案の内容について委員から出された意見等に関して説明があった。
・ 質疑等なし。

（2）第3次小樽市観光基本計画提言書案第4版について変更点の説明と承認【資料2】【資料3】

・ 第8回委員会は提言書案について、最終確認を行う場となっている。確定版として承認いただくことを目的としていることを理解いただきたい。（委員長）
・ 事務局より資料2、資料3を用いて、第3次小樽市観光基本計画提言書案の変更点の要点をまとめたうえで説明があった。

【承認】

・ 委員全員の拍手をもって第4版を最終確定版とする。（委員長）

3. 第3次小樽市観光基本計画策定委員会の振り返り

・ 全8回の第3次小樽市観光基本計画策定委員会の取組に関する感想や、今後の小樽観光への期待や思いについて各委員より発言いただきたい。（委員長）

【委員からの発言】

・ 第3次小樽市観光基本計画の策定に関わる中で、改めて小樽観光の可能性と課題について考える機会となった。特に、これからの小樽観光を考えるにあたって、何を変えて何を残すのかという視点が重要と認識している。運河や歴史的建造物、景観や歴史や文化について、小樽というまちの成り立ちそのものと理解している。これらは小樽観光で変えてはならないもので、目先の利益にとらわれることなく価値を深く掘り下げて次の世代へ引き継いでいくことが求められていると認識。一方で観光客の増加は市民の幸福に必ずしも結びつかない。経済効果のみならず、暮らしやすさやまちの活気を含め、小樽に住んでいて良かったと思えるよう動いていかなければ

ならない。何を残すべきで何を変えるべきかを基準に考えることによって方向性が見えてくると考える。市民が誇りを持って暮らすことができる小樽観光になるような観光基本計画になったと感じている。観光ガイドとして自分自身の立ち位置も再確認することができた。ガイドとしてスキルを磨きながら小樽の観光に貢献していきたい。

- 市民の声を吸い上げ、市民の理解と関心度を高める事が小樽観光において最も重要なポイントとなると認識している。行政が旗振り役として様々な取組をリードしていただけると市民もついてくるのではと考える。観光関連部署のみならず市役所全体として観光関連イベント等に関心を持って参加、バックアップしていただく体制を取っていただきたい。情報収集について、改善すべき点に関する意見を優先して市民から吸い上げ、改善していくべきだと考える。KGI②「観光都市であることに魅力や活力を感じている市民の割合」の目標値70%達成を期待している。
- 委員会で活発な意見交換がなされており、委員それぞれが愛着と思いを持っているのだと感じるとともに、それらが反映された良い計画となっていると認識している。国第 5 次観光立国推進基本計画と DMO 登録ガイドラインを踏まえて進めていただいた点について感謝している。行政がリードする点については小樽市ならやってくれると認識。市民全体が観光について考え続ける事でより良い小樽になると認識している。
- 活発な議論を通じて小樽の皆様がどのように考え、観光に関わっているのかを知ることができた。後志地域の広域観光という視点を持って参加しており、後志について計画内で言及いただき有難いと考えている。振興局として今後も連携して広域周遊できるよう取り組んでいきたい。
- 小樽青年会議所は人づくりを主軸として活動している。活動内容は観光と切り離すことはできない。これからの小樽を担っていくメンバーに共有しつつ、自分事として捉えていきたいと考えている。小樽駅周辺のみならず市内の各地域を観光客に伝えていきたいと考えており、それは計画にも反映されていると認識している。青年会議所としても本計画を指針として取り入れて活動していきたい。
- 普段接することのない異業種の委員が集まる場での議論は貴重な経験となった。委員会では映像関係やアクティビティ、フィルムコミッションについて発言してきた。宿泊税や経済効果について、観光客が快適でかつ、地産地消の食事や土産物が増えてくると魅力的な観光地になっていくと考える。
- 本委員会にて多様な角度から観光振興や観光街づくりを考える貴重な機会となった。歴史的建造物や景観のみならず積み重なってきた人々の記憶や営みが小樽の魅力ととらえている。計画では日常との調和についても取り上げられており、観光の発展の先に地域の豊かさや交流による文化創出等に繋がっていくのではないかと感じている。

・　現場で動いている身として、本計画をどれだけ実効性をもって取り組んでいけるのかが重要と認識している。KPI について 10 年もかけず 3 年で達成するような勢いで取り組んでいきたい。

・　以前より観光客が増加してきており、全国魅力度ランキングトップ 3 に入って誇りを持っている。これは皆様が様々な取組を積み上げてきた結果と認識している。観光客は増えている一方で人口が減っている点に課題意識を持っていた。本計画は目指す姿について誰が見ても分かりやすいものになっていると認識している。小樽では毎週のようにイベントが開催されているのにも関わらず広く伝わっていない。KGI②「観光都市であることに魅力や活力を感じている市民の割合」70%は市民に対して周知や広報活動をしていけば必ず達成されると考えている。事業者としてまた市民として計画の実行に関わっていきたい。

・　提言書の24pと36pのイラストについて、36pが正となっていると認識。31pのイラストについて、運河のガス灯の位置等違和感があるため、各イラストについては再度確認いただきたい。

　今後 10 年間の指針となる提言書について、10 年後の小樽観光では昼は今のように賑わい、夜は素敵なホテルが建ち、飲食店も増え、札幌は空いているのに小樽は混んでいる。そのような観光地になっているのではないかと考えている。

・　札幌市民としては小樽が羨ましい。人口規模が札幌と比較すると小さい小樽だからこそ 1 人ひとりの声が反映された計画となっていると認識。

　一人でも多くの人が観光まちづくりに関わるには、それぞれの生活が豊かになることが重要。個人の生活に余裕が出てくるとまちづくり等の活動に参加するようになる。まずは市民の生活が少しずつ向上していくことが重要と考える。これらは行政主導でコーディネートしていただくことが必要と認識している。

　アドバイザーに観光関連部局は入っているものの、それ以外の部局の方がいない点には違和感を持っているものの、今後庁内横断的に連携して展開いただくと認識している。

・　ここ 10 年の間に、新型コロナウイルスのような未曽有の事象にありながら、再び、多くの観光客が訪れる昨今、観光地経営という考え方や観光客、市民、事業者のそれぞれの役割と責任がしっかりと明文化され、今後共有されることは大変喜ばしいことだと認識している。今後は、小樽の歴史や文化を尊重するとともに、積極的な利活用による新しい展開に期待している。

・　委員会ではオーバーツーリズムや宿泊税、地域内循環等、観光地において重要かつ本質的なテーマについて議論してきた。自分自身や受け持つ学生の何人かは小樽観光を題材に研究している。観光客と提供者や地域住民の関わりのみならず、観光客同士の関わり等に着目しており、研究者の立場として研究を進めていきたい。

　提言書は全員がそれぞれの立場から議論し創り上げた結果となっている。小樽の次

の 10 年を切り拓く実効性と説得力を兼ね備えた提言書となっていると認識している。長期間にわたって尽力いただいた委員、アドバイザー、事務局に感謝している。

4. 手交式について【資料4】
   - 提言書手交式が10月28日（水曜日）14時より本庁本館2階市長応接室にて開催予定である。可能な限り出席ありたい。（事務局）
   - 出欠について変更がある場合は前日の10月27日までに事務局まで連絡いただきたい。（事務局）

5. 閉会
   - 小樽市より閉会の挨拶があった。
   - 手交式後、素案として策定し、パブリックコメントを約1か月間実施予定。その後寄せられた意見を整理・反映し、体裁を整え、2027年3月に完成する予定。今後、本策定委員会から市に提言書を手交した後、内容に変更が生じる場合は、市の責任において変更することをあらかじめ了承いただきたい。
     委員の皆様より2年間多大な協力をいただき感謝している。
   - 小樽市は人口減少が続いている。市と DMO は連携して観光に取り組んでいくが、観光に携わる様々な関係者も人口減少が進む中で、手を取り合って補完し合いながら進めていくことが求められている。行政だけでできる事は限られており、広く様々な民間の団体や事業者の皆様と連携しながら取り組んでいきたいと考えている。引き続き協力をいただきたい。

＜配布資料＞
- 会議次第
- 座席表
- 委員名簿
- 【資料1】第3次小樽市観光基本計画策定委員会（第7回）議事概要
- 【資料2】第3次小樽市観光基本計画提言書案（第4版）
- 【資料3】提言書案（第3版）からの変更点
- 【資料4】市長への提言書手交式について

＜出席者＞
委員については名簿の通り

以上